

令和4年度 第1回神戸市校区調整審議会 議事要旨
 (垂水区名谷町社谷地区の区画整理事業に伴う小中学校校区の調整について)

質 問	説 明
開発区域に整備される道路が桃山台2丁目で既存道路に接続すると交通量はどうなるのか。	交通量の想定は難しいが、通過車両について一部桃山台の住民が心配しているとの話もあると聞いている。開発業者からの説明では、歩道ができると聞いているので、子供たちの徒歩通学の安全については確保できると認識している。
開発区域から既存道路に接続する予定の場所に横断歩道がなかったため、小学生が無理な横断をしてしまうのではないかと心配になった。 桃山台中学校前と同じように横断歩道の整備が必要と感じた。	通学路が変わるときには、一般的には学校と地域、保護者が一緒に歩くなどして、念入りに調整して設定することになる。また、必要に応じて道路を所管する部署や警察などに要望をする場合もある。 ご指摘の場所に横断歩道がすぐに設置できないとしても、もう少し北側の桃山台中学校前に横断歩道があるので、そのルートが通学路として設定される可能性もある。今後、学校にはこの審議会で通学路の安全確保に関する意見をいただいた旨を伝え、教育委員会事務局としても協力して安全確保に努めていきたい。
横断歩道だけでなく、歩道橋や信号機も含めて設置にはかなり時間を要すると思うので、早めに学校や教育委員会から要望を出してもらう方が良いのでは。	対応については、学校と相談しながら考えていきたい。
段階的に開発が進んでいくので、入居者がいる区域と工事中の区域が混在する状況が長期的に続くことになる。その間、工事車両が行き来したり、身を隠す場所が多かったりして、子供が犯罪に巻き込まれる可能性も考えられる。安全に関して地域や学校が気を付けていく必要があると感じる。	通学路の安全の確保に関しては、まずは学校が中心となって考えることになるが、教育委員会事務局内に通学路の安全対策を所管している課があるので、安全に関して懸念される点について情報共有するなどして連携していきたい。
資料の中に記載されている下畑台小学校の児童数・学級数の推移予測の中では、1年間で40人ずつ増えることになっているが、根拠はあるのか。	過去の住宅開発等における児童数増加のデータを参考に、今回の開発区域で1年間に120戸ずつ販売されることを前提に予測される児童数を試算したところ、下畑台小学校はだいたい1年で1学年あたり6~7人程度、6学年で約40人ずつ増えていくと算出したものである。 なお、令和9年度には、下畑台小学校の児童数は現状と比較して約180人増え、18学級程度になると想定しているが、下畑台小学校には、普通教室として使える部屋が現在18教室あるため、教室数は足りると考えている。
今回の開発によりさらに宅地になる予定の土地はないのか。	開発申請の手続きを経て現在の計画となっており、今の計画内容が変わることはないと思われる。